

焼肉店をととして「下村牛」のブランド化を図る (有)下村畜産 (大府市)

事業者概要

- 所在地：大府市吉田町6丁目36番地
- 代表者：下村 勉
- 設立年：昭和50年（平成6年 法人化）
- 経営規模：肥育牛1,100頭、繁殖母牛250頭、乳牛50頭
- 売上高：7億8千万円
- 雇用者数：常時雇用者数8名、臨時雇用者数50名



取組概要

- 【生産（1次）】肉用牛（黒毛和種：独自ブランド「下村牛」）の生産・飼養。
- 【加工（2次）】屠畜・解体、1次加工（脱骨）を外部で行った上で、2次加工（精肉加工）を自社加工施設で実施。
- 【販売（3次）】施設で加工した食肉を量販店、食肉商社、精肉小売店に卸売。インターネット通販やふるさと納税の返礼品として消費者へ直売。「下村牧場直営焼肉店三代目下村牛」で販売。

取組までの経緯

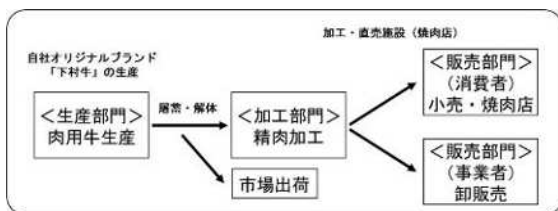
自社で生産した高品質な国産黒毛和種「下村牛」の価値を消費者に伝え、地域に愛されるよう独自ブランド化を進めたいという思いから、焼肉店及び精肉販売施設を2019年4月にオープンした。

取組の特徴、強み

旨み成分であるグルタミン酸が多く含まれた肉質になるよう、独自配合の飼料の使用や、情報通信技術を活用した牛の発情や分娩の把握、ストレスの少ない環境整備を徹底する等、消費者ニーズに合わせた高品質な和牛を効率的に生産する取り組みを行っている。

焼肉店では、高品質な下村牛の名前と味を知ってもらうため、直営店の利点を活かした手の届きやすい価格で販売している。

ビジネスモデル ・連携図



取組の課題

- 消費者ニーズに合わせた、生産や商品開発。
- 初めての飲食店であり、アルバイト教育や幹部社員の育成等。
- 「下村牛」を地元住民に愛してもらえるような食材とするために、直営店を通じた認知を広げるブランディング。

課題解決の方法

- 従業員と定期的に話し合いを行い、消費者ニーズの把握に努め、スピード感を持って商品開発等を行っている。また、生産面でも消費者が求める肉質となるよう工夫している。
- 県や国が設置する「6次産業化サポートセンター」の支援を受け、接客マニュアルの作成を進めている。また、幹部候補社員には責任のある仕事をさせることで人材育成を進めている。
- 自社 Web ページやチラシの全戸配布、ふるさと納税の返礼品等をととして「下村牛」を PR している。

取組の効果

- 売上高：6億5千万円（H30）
→ 7億8千万円（R2）
- 雇用者数：16人（H30）
→ 58人（R2）
- 生産量：肥育牛900頭（H30）
→ 肥育牛1,100頭（R2）

活用した支援策

- 食料産業・6次産業化交付金（H30）
- 6次産業化サポート事業（H29～R2）



今後の展望

【短期】

リピート客を増やすための従業員教育や幹部社員の育成を行っていく。

【長期】

「安心で美味しい牛肉をつくり続け、全ての人に笑顔と活力を提供する」を理念として地域住民に愛してもらえる食材にしていきたい。

取組者のコメント

6次産業化を始める前は、良い物を作っているのだから必ず売れると思っていたが、違った。消費者ニーズに合わせた商品開発が一番大切。また、一人ではすべてのことは出来ない。人材育成や組織作りが必要になる。

6次産業化に取り組んだことで、1頭あたりの価格も高くなり、やって良かったと思う。

